

守山 和道 上間 健造 桜井 紀嗣

小松島赤十字病院 泌尿器科

## 要 旨

症例は、60歳男性。人間ドックで精巣腫瘍を疑われ、当科受診する。左陰嚢内容は、小児頭大に腫脹し、充実性で透光性はなかった。陰嚢水腫及び精巣腫瘍が疑われ精査加療を予定した。4日後陰嚢を軽度打撲し、陰嚢腫脹の増大がみられたため、陰嚢内容の破裂を疑い高位除辜術を施行した。病理組織学的検査の結果、悪性所見認められず、陰嚢水腫の破裂による陰嚢内血腫と診断した。

キーワード：陰嚢水腫破裂、陰嚢内血腫

## はじめに

陰嚢水腫の破裂は、非常に希であり、本邦では文献的に2例の報告があるのみである。今回我々は、精巣腫瘍も疑われた陰嚢水腫の破裂による、陰嚢内血腫の一例を経験したので報告する。

## 症 例

患者：60歳、男性

主訴：左陰嚢の腫瘤

既往歴：特記すべきことなし

現病歴：約1年前より左陰嚢内の無痛性腫瘤に気付くも放置していた。1997年1月人間ドックで精巣腫瘍疑い、前立腺肥大症を指摘され、2月12日当科を受診する。左陰嚢内容は、小児頭大に腫脹し、充実性で透光性はなかった。超音波とCT検査では、内部やや不均一であるが液体の貯留が認められた。陰嚢水腫・精巣腫瘍が疑われ、高位除辜術を予定した。2月16日夜、約20cmの高さより尻餅をついたところ、左陰嚢内容が裂けたようになり、腫脹がさらに増大してきたため翌日受診する。初診時に比べ陰嚢は腫大し、陰茎にまで及ぶ皮下出血がみられた。左陰嚢内容は、充実性で表面平滑。圧痛はなかった。左陰嚢水腫・精巣腫瘍の破裂が疑われたため、同日緊急手術を施行した。

## 初診時検査成績

末梢血液所見：RBC  $520 \times 10^4 / \text{mm}^3$ , Hb 14.4g/dl, Ht

45.5%, WBC  $7020 / \text{mm}^3$ , PLT  $24.4 \times 10^4 / \text{mm}^3$  血液生化学：Na 139mEq/l, K 3.4mEq/l, Cl 100mEq/l, Ca 9.7mg/dl, BUN 14mg/dl, Cr 0.6mg/dl, UA 4.5mg/dl, P 2.7mg/dl, GOT 16 IU/l, GPT 17 IU/l, ALP 174 IU/l,  $\gamma$ -GTP 45 IU/l, LDH 241 IU/l, CRP 0.7mg/dl, AFP 2.0ng/ml  $\beta$ -HCG 0.10ng/ml 未満

## 画像診断

陰嚢部単純CT（初診時）：左陰嚢内容は、 $9 \times 11 \times 10 \text{cm}$ 大に腫大し、辺縁はsmooth、内部densityはやや不均一でややlow。(Fig. 1)

陰嚢部単純CT（打撲後）：初診時CTと比べ左陰嚢内容はさらに腫大し、内部densityも不均一となっている。(Fig. 2)

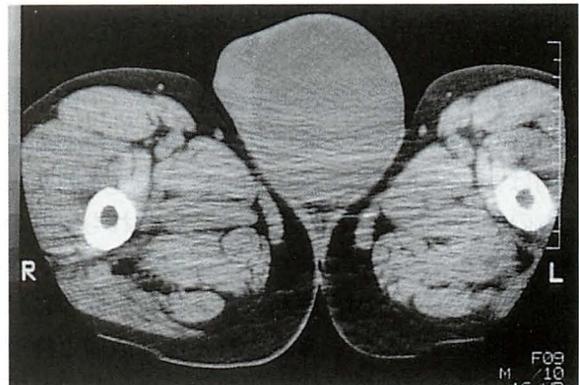


Fig. 1

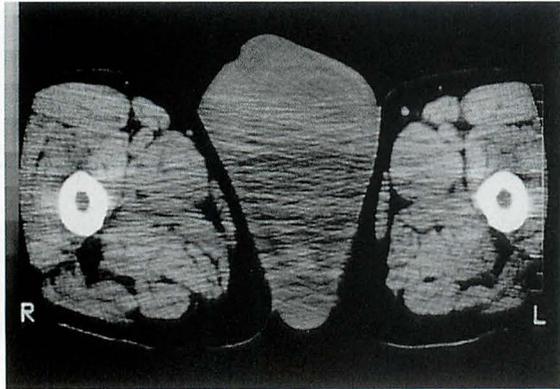


Fig. 2



Fig. 3

### 手術所見

陰嚢全体が腫脹し、皮下出血もみられ、陰茎まで腫脹していた。(Fig. 3) 硬膜外麻酔下、外鼠径輪～陰嚢まで皮膚切開し皮下を剝離した。精索から精管を剝離した後、阻血した。陰嚢内は、固有鞘膜外周に沿って血腫がみられ、陰嚢中隔部の癒着が強く、剝離の際、固有鞘膜が破れ古い血液様の内容液が排出された。この部分で破裂したと思われた。腫瘤内を観察したところ、内部に硬結部があり、malignancyも否定できなかったため、外鼠径輪部で、精管・精索血管を結紮切断し、腫瘤を摘出した。

摘出標本の剖面：内部に古い血腫がみられ、鞘膜壁は肥厚し、硬化していた。精巣は、肉眼的に異常所見は認められなかった。(Fig. 4)

病理組織診断：腫瘍性変化なく、古い血腫とその周囲の結合織の出血が認められた。

術後経過：経過良好で3月1日退院となる。

考察：文献的には、2例の報告例があり、一例は陰嚢水腫で数回穿刺を受け、軽度打撲で破裂したのもう一例は、シートベルトの圧迫により陰嚢水腫が破裂したものであった。本症例も含め、いずれも軽度の鈍的外力によって破裂しており、水腫の緊満状態、水腫壁の肥厚・硬化が原因と思われた。また、成書には水腫の破裂は「ただちに引き裂かれる様な激痛と極度のショックのごとき急性症状で現れる」と記載されているが、いずれの症例もこのような急性症状はみられて



Fig. 4

いなかった。他の2症例は、水腫根治術・陰嚢内血腫除去術を施行されていたが、本症例では、初診時より、また術中所見よりmalignancyも否定できなかったため陰嚢内容摘出術及び血腫除去術を施行した。非常に希ではあるが、日常比較的にみられる陰嚢水腫も破裂する危険性があることに注意する必要があると思われた。

結語：陰嚢水腫の破裂による陰嚢内血腫の一例を経験したので若干の文献的考察を加えて報告した。

### 文 献

- 1) 鳴尾精一、他：シートベルトの圧迫により破裂した陰嚢水腫の一例。日泌会誌 77：1547, 1986
- 2) 佐々木英夫、他：外傷性陰嚢水腫破裂の一例。日泌会誌 77：1896, 1986
- 3) 鈴木和浩、他：急性陰嚢症の臨床的検討。泌尿紀要 37：1287-1291, 1991

---

## Scrotal Hematoma : A Case Report

Kazumichi MORIYAMA, Kenzo UEMA, Noritsugu SAKURAI

Division of Urology, Komatushima Red Cross Hospital

The case was a 60-year-old male who was suspected of having a testicular tumor at a medical checkup and thus consulted us. The left scrotal contents were swollen to the size of a child's head and was solid without light permeability. Scrotal hydrocele or testicular tumor was suspected and careful examination with treatment were thus scheduled. Four days later, the patient got a mild bruise on the scrotum, which caused the increase of the scrotal swelling. Thus, rupture of the scrotal contents was suspected and high orchiectomy was performed. Histopathological examinations revealed no malignant findings and the case was diagnosed as scrotal hematoma due to rupture of scrotal hydrocele.

Keywords : rupture of scrotal hydrocele, scrotal hematoma

Komatushima Red Cross Hospital Medical Journal 3 : 49-51,1998

---